

連載：原点

## 「初心を忘れずに」

県立船橋高等学校 岩井 剛

－はじめに－

県立船橋高等学校(以下、船高)に赴任してから、すなわち、私の数学教員としての生活がスタートしてから、半年が過ぎようとしています。そこで、船高に赴任するまでの自身の胸中や、この半年間での生徒との関わりの中で感じたことについて、初心を記す意味も込めて振り返ってみたいと思います。

－いざ船高へ－

船高への赴任が決まったとき、私はまず驚きました。まさか、初任校が進学校の船高になるうとは露とも思っていなかったからです。また、進学校での授業ということに不安も覚えました。一方で、船高にはどんな生徒が集まっているのだろうかと楽しみにも思いました。

船高に赴任してからの半年間、授業や部活動、その他の活動での生徒の様子を見てきて感じることは、生徒が何事にも常に全力かつ意欲的に取り組んでいるということです。授業で分からないところがあれば休み時間や放課後に質問に来る生徒がいます。休むことなく毎日の部活動に励んでいる生徒がいます。文化祭等の行事が近づくと、朝早くに学校へ来て準備をし、放課後も遅くまでまた準備に明け暮れるという生徒の姿を目にしてきました。何事にも全力で取り組む生徒の姿はとても印象的であり、不安や緊張のもとにスタートした私はそのような生徒の姿にとっても励まされたように思います。

－生徒と数学－

特に、数学に対する生徒の意識はかなり高いように感じます。数学が積み重ねの上に成り立つということをよく分かっているのでしょう。そのため、真剣に授業に耳を傾け、分からなければ積極的に質問するという姿勢が多く生徒から見られます。

生徒の質問からは、生徒にとって分かりづらい内容や授業中に気をつけるべき点を学ぶことができます。また、こちらが見落としていたり、ハッとさせられたりするような考え方も出会うことがあります。その度に、私ももっと頑張らなければという気にさせられます。

－わかった！のために－

生徒は疑問を持っています。また、その疑問を解決しようとしています。私の役目は、生徒が疑問を解決するための道しるべになることだと思います。また、生徒の疑問をさらに深め、生徒がより深く理解できるように導くのも私の役目の一つでしょう。そのためにも、教材研究を十分に行い、生徒の「なぜ？」はどこにあるのか、また、どのようなところに「なぜ？」を持ってもらいたいのか考えなければなりません。そして、それらの「なぜ？」から「わかった！」へと生徒がたどり着けるようになる授業をしたいと思います。

これからも生徒の「なぜ？」から「わかった！」までの道のりを大切にしていきたいと思っています。